



OHARA MUSEUM OF ART

倉敷の実業家・大原孫三郎と、洋画家・児島虎次郎が育んだ夢と絆の結晶として、1930(昭和5)年に産声をあげた大原美術館。日本初の西洋美術館として多くの人々に衝撃と感動を与えてきた「大原」は、常に、芸術を志す者、愛する者に寄り添い、時代を先駆けながら進化を続けてきました。本展では、美術館の開館以来、時代を超えて愛されてきたモネやセザンヌなどの名品をはじめ、珠玉のコレクションを代表する西洋・日本の近現代作品を、美術館の歩みをたどりながらご紹介します。

関連イベントも盛りだくさん!!

- 講演会**
7月19日(土)/13:30~15:45/美術館6階研修室
【第I部】「倉敷と大原美術館の物語」 講師:大原謙一郎氏(大原美術館理事長)
【第II部】「絵画の冒険~モネから瀧池朋子まで」 講師:高階秀爾氏(大原美術館館長)
●定員:100名 ●参加無料 ●要申込み(受付は6月19日から)
- スペシャル・ギャラリートーク**
7月20日(日)/14:00~14:45/美術館5階展示室
ナビゲーター:柳沢秀行氏(大原美術館学芸課長)
●要観覧料 ●申込み不要
- ギャラリートーク(近代美術館担当学芸員)**
7月26日(土)、8月24日(日)/14:00~14:45/美術館5階展示室
●要観覧料 ●申込み不要
- ミュージアムコンサート**
「トリオ「ドルチェ」によるコンサート」
7月27日(日)/①13:30~ ②15:00~/美術館5階中央ホール
出演:北嶋美子(バイオリン)、吉田妃呂子(フルート)、佐々木久美子(ピアノ)
●参加無料 ●申込み不要
- 夏休み/小学生 模写体験プログラム**
大原美術館の名作を展示室内で模写できる小学生対象のプログラムです
①7月29日(火)、②7月30日(水)、③7月31日(木)/10:00~11:30
●対象:小学生(低学年の児童は保護者同伴) ●定員:各回15名
●参加無料 ●要申込み(受付は6月29日から)
- アーティストワークショップ&サイン会**
「スイーツでハッピー・アノバーサリー」
フェイクのクリームやフルーツで、オリジナルのケーキ作りを体験します
8月9日(土)/美術館5階中央ホール
①10:00~11:50(ワークショップ)12:00~12:30(サイン会)
②13:30~15:20(ワークショップ)15:30~16:00(サイン会)
講師:渡辺おさむ氏(大原美術館展出版作家)
●対象:ワークショップは小学生以上一般(各回とも定員20名)
※ワークショップは要材料費(500円)、要申込み(受付は7月9日から)※サイン会はショップで対象グッズをお買い上げの方
- 名誉館長講座特別編**
9月6日(土)13:30~15:00/美術館6階研修室
「大原コレクション 日本近代洋画の魅力」 講師:河野元昭(近代美術館名誉館長)
●参加無料 ●申込み不要
- ミュージアムワークショップ(近代美術館担当学芸員)**
「楽しくはじめる油彩画教室」(全2回)
9月6日(土)、7日(日)/10:00~16:00/美術館1階実習室
●対象:中学生以上一般(定員15名) ●要材料費(1,000円程度) ●要申込み(受付は8月6日から)

くわしくは、美術館HP、またはお電話で!

秋田魁新報創刊140年・秋田県立近代美術館開館20周年

大原美術館展

2014.7.19(土)→9.15(日)

開館時間:午前9時30分~午後5時
(入館は午後4時30分まで)
会期中、休館日はありません
会場:秋田県立近代美術館 5階展示室
観覧料:一般1,200円(1,000円)、
大学生以下無料
()内は前売りおよび20名以上の団体料金、
障害者手帳をお持ちの方と介添1名までは600円

【前売り券販売期間】
平成26年5月12日(月)から7月18日(金)まで
【前売り券販売所】
・さきかけ大町センター・秋田県立近代美術館
・秋田ふるさと村・caoca広場・県庁地下売店
・カシワヤ楽器横手駅前店
・ローソンチケット(ローソン/レコード:26258)
・チケットぴあ(サークルKサンクス・セブンイレブン/
Pコード:766-105)
・セブンチケット(セブンイレブン/セブンコード:029-483)
・イープラス(ファミリーマート)
【前売り券取次所】
秋田魁新報社県内支社・支局/秋田魁新報販売店
※前売り券に関するお問い合わせ
秋田魁新報社事業局企画事業部 Tel.018-888-1857

会期中、ムンク、マティスの作品(5点)の
展示替を行います。
【前期】7月19日(土)~8月17日(日)
【後期】8月18日(月)~9月15日(日・祝)

■アクセス
【JRバス】JR横手駅東口から「ふるさと村行き」で
ふるさと村下車
【乗用車】秋田自動車道 横手インターより3分
【高速バス】高橋バス(東京・秋田線)横手インター入口
下車徒歩10分
※「横手インター入口」は、秋田行きは乗車可、
横手行きは降車のみです

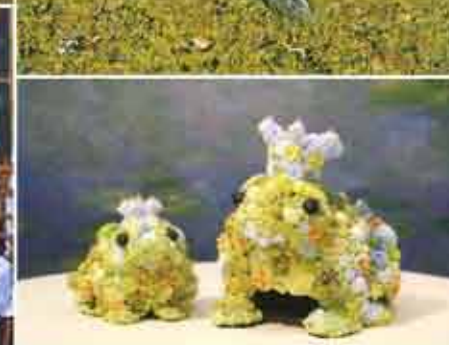


■お問い合わせ/秋田県立近代美術館
〒013-0084 秋田県横手市赤坂字宮沢62-46
(秋田ふるさと村内)
Tel.0182-33-8855
Fax.0182-33-8858
【HP】<http://www.pref.akita.jp/gakusyu/public.html>



秋田魁新報創刊140年・秋田県立近代美術館開館20周年

大原美術館展



Masterpieces from OHARA MUSEUM OF ART



2014.
7.19(土)→9.15(日)

開館時間:午前9時30分~午後5時
(入館は午後4時30分まで)
会期中、休館日はありません
会場:秋田県立近代美術館
5階展示室

上野の森(アクリル・油彩)1889年
モネの睡蓮(油彩)1899年
雨、蒸気、グレート中央鉄道(油彩)1844年
サン・ピエール・ド・ワレ(油彩)1887年
ワレの森(油彩)1887年
ワレの森(油彩)1887年
ワレの森(油彩)1887年
ワレの森(油彩)1887年

お問い合わせ/秋田県立近代美術館
〒013-0084 秋田県横手市赤坂字宮沢62-46
(秋田ふるさと村内)
Tel.0182-33-8855 Fax.0182-33-8858
【HP】<http://www.pref.akita.jp/gakusyu/public.html>

珠玉の名作68点、倉敷から秋田へ!



主催:大原美術館展実行委員会(秋田魁新報社/秋田県立近代美術館)
特別協力:公益財団法人 大原美術館
後援:横手市/横手市教育委員会/NHK秋田放送局/ABS秋田放送/AKT秋田テレビ/
AAB秋田朝日放送/エフエム秋田

大原美術館のはじまり

—大原孫三郎と児島虎次郎—



大 原美術館の物語は、岡山県倉敷市の実業家・大原孫三郎と洋画家・児島虎次郎との出会いに始まります。岡山県出身の虎次郎は、大原家によって設立された奨学会の援助を得て、東京美術学校を優秀な成績で卒業しました。その後、孫三郎の勧めによりヨーロッパへと留学し、画家としての技量に磨きをかけます。さらに見聞を広めた虎次郎は「日本の芸術界のために」と、西洋の優れた美術品を日本に持ち帰りたいと孫三郎に願い出たのです。その記念すべき第一号が、当時フランスで人気画家だったアマン＝ジャンの「髪」でした。第 I 章では、大原美術館の開館以前に、虎次郎と孫三郎によって収集された作品をご紹介します。



①エドモン＝フランソワ・アマン＝ジャン「髪」(1912年頃)
 ②児島虎次郎「里の水車」(1906年)
 ③ピエール＝ボナール「栗干の壺」(1909年)



④サム・フランシス「無題」(1987年)
 © 2014 San Francisco Foundation, California / ARS, N.Y. / JASPAR, Tokyo E0907
 ⑤草間彌生「無題(No. RED.Z.A.)」(1960年) © YAYOI KUSAMA
 ⑥難波田龍起「コンポジション」(1966年)

現代美術コレクション

—アンフォルメルと抽象表現主義—



総 一郎は、日本における革新的コレクターの先駆者として世界を見つめ、同時代を生きる前衛的な作家たちに熱いまなざしを送っていました。新しい表現の可能性を提示するフランスのアンフォルメル運動、アメリカの抽象表現主義、そして世界の潮流に触発された日本美術界の動向にも敏感に反応し、積極的に斬新な作品群を収集したのです。第 III 章では「美術館は生きて成長していくもの」を信条として、模索する画家たちを支援し続けた総一郎の思いを探ります。

印象派から現代アートまで、それぞれの時代を映す美の散歩道

大 原孫三郎と児島虎次郎の遺志を受け継ぎ、コレクションにさらなる厚みを加えたのが、孫三郎の息子・総一郎です。総一郎は、19世紀末から20世紀初頭にパリで活躍した画家たちの作品を収集し、西洋近代絵画の充実を図りました。さらに国内にも目を向け、独自の視点で多くの日本近代洋画をコレクションに加えていきます。戦後の混乱期に、まだ評価の定まっていなかった作品群を収集し、常設展示場(現在の分館)を設けることは、冒険であり、時代への挑戦でした。第 II 章では、西洋・日本の近代絵画史上に燦然と輝く名画を通して、総一郎が見つめていた時代をたどります。



⑦アンリ・ルソー「パリ近郊の眺め パニュー村」(1909年)
 ⑧佐伯祐三「パリ街景」(1927年)
 ⑨中村錦「頭蓋骨を持つる自画像」(1923年)



⑩山口典「真鍮金刀比羅圖」(2005年) ⑪池田節子「第1章」(2006年)
 ⑫渡辺あさひ「Sanctuary かえる」(2012年)



21 世紀の現在も、美術館は絶えず進化しています。新進気鋭の作家による「有隣荘(大原家別邸)」での個展開催、また児島虎次郎の旧アトリエを開放し、若手作家に制作と発表の場を提供する「ARKO(Artist in Residence Kurashiki, Ohara)」の取り組みなど、新たな歴史の1ページを日々つづっているのです。第 IV 章では、現在の日本アートシーンで注目される、大原美術館ゆかりのアーティストたちをご紹介します。

近代美術コレクション

—大原総一郎の時代—

大原コンテンポラリー

—21世紀の美術館として—